しらうめようちえん

園だより

2021年 第1号
ご入園おめでとう

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2021年4月9日発行
小平市小川町1−830

幼児期こそ「やりたいからやりたい」

園長 本山方子

ご入園、おめでとうございます。

日々、輝きを増す春光のもと、新入園児のみなさんとこれから過ごせることに胸をふくらませております。本園は、子どもが自分で考え、行動し、友達と育ちあうなど、自ら伸びようとすることを大切にしています。教員一同、研鑽を積み、最善の保育を提供いたします。

新入園の年少さんだけでなく、年長さん、年中さんも新しい環境に移行して、これからたくさんのお友達や様々な出来事に出合っていくことでしょう。「芽吹く」「息吹き」「芽生える」というように、大人も子どもも、この季節、何か新しいことをやってみたくなったり、できそうな気になったりします。しかし、大人になると、この期待感や意欲は必ずしも実際の行動に結びつきません。大人の年齢に近づくにつれて、誰にでもできる簡単すぎることはやりたくありませんし、かといって何かに挑戦して失敗することは避けたくなります。大人は、「やってみたい」と思ったことについて、それはやりがいや賞賛を得られるようなことなのか、本当に自分はできそうなのか、など、やりたいはずのことを値踏みしたり、自分の力量を見定めたり、さらには損得や後先を考えたりして、行動を起こすことに慎重になります。「やりたい」と言いつつ、やらない理由を探しているようです。

幼児は損得勘定で動くわけではありません。心動かされたものに直感で反応したりします。大人には「無謀」に思えても、幼児にとっては「冒険」です。未知の世界にワクワクし、それは時に大人の予想を凌駕し、幼児ならではの「すごいこと」を成し遂げます。例えば、ある年少児が友だちの順番をとばして自分が先に玉転がしをしてしまった時、なぜ順番を無視して転がしたのか、責められたことがありました。その子は泣いて謝りながら「やりたいからやったんだ（玉を転がしたいから転がした）」と主張していました。分別ある大人にとっては「やりたいからやる」など他人の順番をとばした理由にはならないし、言わないことでしょう。けれども、自分の気持ちに素直に応えたその子は、年長組になる頃には転がしコース遊びで仲間に一目おかれる存在になっていました。大人が考えつかないようなコースをつくるようになっていたのです。

現代社会において、予測困難な事象や出来事を避けては通れなくなっています。考えれば考えるほど分からなくなってしまうこともあります。その時、やらない理由探しを続けるのかどうか。幼児の「やりたいからやる」姿に見習うことはないでしょうか。

本園では冒険する園児の「すごさ」をそこここで見られます。幼児期だからこそ可能な経験を園児の皆さんにたっぷりとしていただけるよう、努めてまいります。